

〇11番（上野淑子君）〔登壇〕

おはようございます。休憩がありませんでしたので、ちょっと息をつく間がありませんで……。

登壇の許可を得ましたので、11番上野淑子の一般質問を始めていきたいと思います。よろしく願いいたします。

先日来から、いろいろ一般質問の中でも図書館についての質問が多々ありました。で、私も気になりまして、急遽でしたけれども、市長の許可を得まして、図書館のほうにちょっと行かせてもらいました。本当に作業中で大変な混雑をしておりましたけれども、邪魔にならないように、さささっと見せていただきました。そして、自分の疑問とするところを、ああ、こんなだったなということを感じて帰ってまいりましたので、報告したいと思います。

本当に図書館、まだそんな混雑している中ではありましたけれども、入ってびっくりしました。まずは驚きました。今までのエポカル図書館も私は大好きでした。でも、今度リニューアルしたこの図書館、本当にすごいです。蔵書はさることながら、私は前も一般質問でも言ったと思いますけれども、子どもたちに対する読み聞かせ、昨日もあっていましたよね、ボランティアさんとか子どもたちに対するのはどうなのかと。私もすぐその場に案内していただいて見てまいりました。窓際の広いスペース、全面ガラスからは、外の緑の景色はとってもきれいに見えます。そして、本当に落ちついた場所です。子どもたちがここでボランティアの方たちの読み聞かせを本当に楽しんで、喜々として聞いている姿が目に見えようでした。安心しました。

それから、スターバックスコーヒーのところですけども、コーヒーは販売、まだ途中でしたけれども、試作でしょうか、とてもいいにおいが館内しておりましたけれどもですね。で、本当に迷子になるような、あんなに広がったのかなと思うほどの広さになっておりまして、それから私たちが座って読むスペースも、ここここはこうなりますという話を聞きましたけれども、ああ、こんなになるんだったら私の行く場所もあるなと思って見てまいりました。

それから、私の言葉で言ったら、本当にあか抜けた図書館だなと。私も東京のほうでもいろいろんな図書館も見せていただきました。でも、本当にこんな図書館は初めてだなと思って見えております。落ちついた雰囲気、木の香りですね。色も本当に落ちついている。だから、私は、ここだったら私が心配していた老若男女、障がいを持つ人たち、子どもたち、みんなが集える場所になるんじゃないかな。きっときれいに整備されて、オープンした暁には、みんながどこかに心地よい居場所を見つける図書館になるんだなと思って、本当にわくわくオープンを待っている次第です。

皆さん、3月31日ですね、どうぞ出かけていってみてください。きっと武雄市が後世に残す一つの大きな宝物になるんじゃないかなと思っております。本当にうれしいことでした。

先に黙って行ってでしたけれども。

それから次に、これはお礼を言いたいと思います。

3.11の震災の慰霊祭のほうに、市長を初め、代表の議員さんが一緒に行っていたこと、本当にうれしく思います。私はテレビでずっと見ておりました。本当は行って言葉をかけなくてはならないでしょうけれども、代表で行っていただいたことに本当に感謝申し上げます。

報告にありましたように、被災地はまだまだです。頑張っている方もたくさんいらっしゃるけれども、本当に手助けを待っている方もたくさんいらっしゃいます。で、先日も山口昌宏議員の報告にもありましたように、親を亡くした子どもたち、そして本当に虐げられた生活を過ごしている子どもたち、大変な状態だと思います。瓦れきもさることながら、原子炉に至っては、まだまだいつ片がつくやらめどがつかない、気の遠くなるような状態です。こんな中、本当に私は子どもたちが安堵して勉強に打ち込む日々が来るように願わずにはおれません。私たちは、この3.11を忘れないで、心にとめながら、今のこの幸せな日々を大切にしていかなければならないと思ったところです。そして、まだ2年目、もう2年目という言葉の重さを感じた次第です。本当に考えさせられました。

で、きょうの質問ですけれども、私はこういうことを考えながら、いろんなことを考えながら、子どもたちについての質問を今回はたくさんいたします。市民の方からの負託をされましたいろんな意見がありましたので、質問をしていきたいと思っております。

まず初めにですけれども、12月議会でも私はいじめについての質問をいたしました。そのときもいろいろ、たくさんの方からも質問があって、いろんなことを論議されましたけれども、それからまだ何か月しかたっていないけれども、日本全国あらゆるところで、いじめ、体罰、問題は出ております。ニュースはいつもいつもそういうことでいっぱいです。どうしてなのでしょう。先ほど申した、被災地の報告がありました子どもたちの様子。今、私たちがいる、この子どもたちの様子。なぜこうなるんだろうなと私は思います。衣食住足りて——それは足りていないところもあるかも知れませんが、足りて、そしてまた学校もきれいになったし、いろんな教材も整備されたし、私が現場にいるときとしたら随分と変わってきていると思います。なぜいつまでもこんなふうなものが続くのかなと、私は不思議でなりません。

それで、私はもう現場を去って十何年になります。一体学校現場というものはどういうふうになって、先生方はどういうふうな取り組みをしていらっしゃるのかなということを、本当に根底から、そこをしっかりとわかって、なぜいじめなのかなということを考えていかなければならないかなと強く思って、きょうはそのことについて、いろいろ学校現場についてのいろんなことをお聞きしていきたいと思っております。

本当に、きのうの幸せなこの日々をとおっしゃる報告の中で、なぜこういうことは次から

次に起こるんでしょう。今、武雄市が起こっているわけではありません。武雄市の報告は本当にゼロに近い報告ですけれども、私たちはいろいろなことを考えていかなきゃならないと思います。なぜなのか、教育長にお尋ねをしたいと、どうお考えなのか、お尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

あすは中学校の卒業式でございます。毎年思うわけでありましてけれども、ほとんどの子どもたちは、非常に明るい夢を持って、希望を持って、卒業式を迎えるわけでございます。今おっしゃいましたように、教育の世界、いろんな課題を抱えているのもまた事実でございます。皆様方それぞれに、その背景なり理由というのはお考えをお持ちだろうというふうに思います。大きく国家的な課題ということから、家庭で抱える課題、いろんな要素が入っているというのが事実であろうかというふうに思います。そういう意味で、どの政権におかれても、教育の課題を非常に重要な課題として取り上げて、いろんな施策を進めていただいているということは、もう御承知のとおりでありますし、身近な武雄市の子どもたちについても、基本的には子どもたちも先生方もしっかり頑張ってくれているという思いの中で、課題については対処していきたいというふうに思っております。

言いましたように、子どもたち一人一人が抱えている課題によるものもでございます。あるいは非常に厳しい家庭の今の状況から、子どもたちを責められない課題もでございます。同時に、学校においても、例えば、いじめの問題に象徴されますように、どういう教育観で指導をしたらいいのかと。あるいは偏りがいいのかとか、きのう申しましたように、どの子も加害も被害もあり得るといふ、そういう状況の中で、根源的な問題も含めまして、教師のあり方、そういう幾多の要素の中で現在の状況が生まれているというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

11番上野議員

○11番（上野淑子君）〔登壇〕

本当にいろんな複雑なたくさん課題があると思いますが、私は現実的に学校の現場自体が、何といたしましよ、私がおるとき、前は1クラス40人から50人だったりとか、そういうふうな学校の中身自体が、どういうところ、どうなっているかと。子どもたちがどういう生活をしているかということについて、具体的なことをお聞きしたいと思いますが。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

今現在、来年度のことを、学校の状況を考えている時期でございますが、実は小学校は学

級増4という状況でございます、今の予定でいきますとですね。中学校はプラス・マイナス・ゼロというような状況でございます。で、子どもたちは減っているのにといいことでございますが、これだけのいろんな課題の中で、子どもたちの数がやっぱり多過ぎるんじゃないかというようなことで、小学校1年、2年、あるいは中学校1年あたりに、36人以上の場合にいろんな対応をして、クラスを分けてみたり、TTの先生をふやしてみたりというようなことで、クラスの人数は、小学校3年以上、中2、中3については40人という場合もあるわけですが、小1、小2、中1については、36人を超えたらそういう、以前と比べましたら随分少人数での対応というような状況になっております。

○議長（杉原豊喜君）

11番上野議員

○11番（上野淑子君）〔登壇〕

学校の生徒自体はそういうふうになくなってきているけれども、先ほどおっしゃったようないろんな課題がある。なぜ生徒数は少なくなったんだと思われませんか。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

なぜ少なく……。大きな少子化の動きとは別にですね、学校の中で。（発言する者あり）

やっぱり実際の体験からいきますと、30人ぐらいだったら丸つけも10分休みにできるとか、現実的なそういうところもありますし、どこまで少なくしたほうがいいかというのは、これまでもいろんな論議がなされて、36人を2クラスに仮に分けたとしますと18人になります。ですから、教科によっては、逆に減らし過ぎても困る場合もございます。そういう意味では、手が行き届く、目が届くというのは、物理的にも納得できることだというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

11番上野議員

○11番（上野淑子君）〔登壇〕

一般に私の耳に入るのは、生徒数は、クラスの人数は減っておるとに、何でがんとの問題の起こるとやという意見はよく聞かれるんです。ですから、今お聞きしたんですけれども、でも、その中でも、私はせんだって北方小学校のほうにちょっとお邪魔をいたしました。そして、前は——昔と言うぎ、ずっと昔のごたるですけど、そうじゃない、私がいたときのことなんですけれども、障がいを持つ子どもさんの学級というのを特殊学級と言っておりましたが、そのときは1クラスでした。そこで何人かの子どもさんたちと一緒に見ておりました。ところが、今行ったら2つあって、1つのクラスには1人、1つのクラスには2人ですかね、いらっしゃる。あら、別々になったとですね。私も勉強不足でしたけれども、じゃ、ちょ

っと見せてくださいね、参観させてくださいねと言って、子どもたちと一緒にちょっとばかりですね、しばらく過ごさせていただきましたが、今は子ども自身もそういうふうになってきている。そこで、新しく発達障がいという言葉が、もう皆さんもよく耳にされるし、目にされると思いますが、発達障がいという言葉があるですね。それによってこんなになったんですよ、こうしなければならぬんですよ。その発達障がいということについて少しお聞きをしたいと思っております。

せんだっての新聞で、発達障がいは全国で、文科省の調べによりますと、小・中学生で61万人もいるということ。そして、その中の4割は支援を受けずに普通学級の中で生活をしていきますよという統計がとられております。その発達障がいについて、私たちもやはり知っておくべきだと思います。これだけたくさん子どもたちがいるということですね。で、発達障がいについて教えてほしい。それから、発達障がいに対して、現在、我が武雄市においてはどのような対策をされているかということをお聞きしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

（モニター使用）すみません、先ほどお話になりました特別支援学級の推移ということで出ておりますが、22年度、市内で15学級ございました。このときには、知的な障がいがある子どもさんも、情緒面が心配な子どもさんも、実は同じクラスに、同じ学級で在籍するというような状況でございました。で、平成19年度から特別支援学級という言い方がされるようになってきたわけですが、そういうように、できるだけ一人一人の子どもさんのニーズに対応した学級指導というのができないかということで、23年度には情緒面で心配な子どもさんが入られる情緒学級、そして体の不自由な子どもさんが入られる肢体不自由の支援学級というのでも1学級できまして、市内で一挙に4学級ふえました。今年度、24年度は、そこに掲げていますように、3学級増の22学級という状況になっておりまして、22年度から比べますと7学級ふえると。これは武雄市だけじゃないわけですので、全国的には膨大な数の学級がふえているという状況でございます。

今は、市町の教育委員会の裁量によって、こういう学級を設置したいということで申請をするという形でございます。以前は知的な障がい、情緒障がいの子どもさんも一緒にして、この1学級つくっていいですかというような許可が要ったわけですが、申請することで現在はそういう学級の配置になっております。

それに加えて、今お話にありました発達障がい、LD、ADHD、高機能自閉症等も対象とするという発達障がいの学級も設置できるようになりまして、武雄小学校には以前からことばの通級教室がございました。できるだけ小さいうちに歯医者さんに行くようにというように、ことばの通級教室が長いことずっと設置されているわけでございます。こ

れはそのままにいたしまして継続、でも、もっと学級欲しいくらいでございます。で、22年度に朝日小学校にまなびの教室を新設することが認められました。朝日小学校に、このまなびという教室は、先ほど話にありました発達障がい的小朋友さんが通って、通級ですので、1週間に1回とか通って対応をしているという状況でございます。来年度は中学校においても設置できないかということで要望をしているという状況でございます。

それから、特別支援につきましては、現在、県立の特別支援学校がございますので、このような形で三、四十名弱の方が支援学校に通っておられる、あるいは宿舎に入寮してあるというところがございます。これは、武雄市の場合はいずれの特別支援学校が主でございますが、伊万里市、あるいは県内のそれぞれの支援学校に就学をされているという状況でございます。したがって、以前と比べましたら、そういう面での充実は図られてきているということが言えるかというふうに思っております。

すみません、長くなりました。

○議長（杉原豊喜君）

11番上野議員

○11番（上野淑子君）〔登壇〕

本当に子どもたちの様子が変わってきたということはよくわかりますけれども、では武雄市においては、今、新聞に報告がありましたように、まだまだ4割強が普通学級で見ているという状態に全国的になっているんですけれども、私たちのまちにおいては発達障がいと、それから肢体に上げられた障がいを持つ子どもさんたちというのは、みんなその教室において勉学できているのでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

それぞれ的小朋友さんがそれぞれの特徴があるわけでありまして、親さんから見たら心配な小朋友さんも学校ではきちんとできているとか、そのまた逆もあるわけですが、ですから、いろんな支援学校の先生に来てもらって判断していただいたり、あるいは一緒に見てもらったりということもあるわけです。で、これがきちっと、その判断が非常に難しいということがあります。ですから、担任の先生から、ちょっとそういう面で心配な小朋友さんはおられますかと言ったら、やっぱりかなりの数になるわけですが、全国的には6%とか御承知のとおり言われているような状況であります。で、武雄市の場合におきましては、できるだけ学級で落ちついた学習ができるように、あるいは先ほど言った通級の場をかりて対応ができないかというようなことまで含めまして対応しているわけでございます。御承知のとおり、学級で学ぶそういう子どもたちについては、生活の支援員さんを配置させていただいて対応しているというような状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

11番上野議員

○11番（上野淑子君）〔登壇〕

今のところ心配はないということですが、本当にこの発達障がいというのは、前は判断できなかったのかどうかわかりませんが、本当に現場においては、普通学級にそういう子どもと一緒にいるということは、先生方にとっては大変な手の要る学級じゃないかなと思っております。ですが、今のところたくさん支援員とか、それから教室をこのようにたくさん設けていただいて、子どもたちもそこで幸せに生活ができるようになっているんじゃないかなと思いますが、そんなふうな何かかんかで、今、学級の人数は減ったとはいえ、子どもたち自身もそういうふうなことを抱えている現場、それからさっきおっしゃった家庭的なこと、不登校とか、いろんなことを抱えて、先生方は本当に大多忙、超多忙な生活を過ごしていらっしゃると思うんです。その中で、いじめとか、体罰とか、こんなにたくさん出てきたときに、あるところからは、いじめとか体罰——体罰はしてはならないと学校教育法に決めてありますが、いじめについてはわからない。なぜかというところで、新聞なんか、いろんな学者の人とか、いろんなことの中から見ますと、簡単に言って手が足りない。教師が足りない、時間が足りないというのは、いろんな統計の中にたくさん出てきております。でも、先生方は、その中でも子どもたちに向き合って、何とかして子どもたちから、いじめ、体罰、いろんなことがなくなるようにと努力をされていると思います。また、されております。その時間が足りない、職員が足りないということについて、いろんな現場では努力をされているところはありますが、子どもと向き合うためにどのような努力、工夫がされているのかをお尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

先ほど来申しております特別支援教育についてもそうありますが、一人一人の子どもたちをよりよく見ていこうというのがずっと進んできたというのは事実だろうというふうに思います。もう50人、60人近い学級だったのが、やっぱり本当に一人一人の子どもに沿った、先ほど申しました障がいについても、一つの個性として、やっぱりそのニーズに合わせた指導ということを考えますと、以前よりもはるかに充実してきていると、そういう側面は片方に、学校の様子を見たときにですね、これはあると思います。

それから、向き合う時間ということで、これまでも何回かお話をしてまいりましたけれども、どうやって時間を生み出すかと、いろいろ各学校でも工夫をしてもらっております。言ったかも知れませんが、今、校務支援システムで、行事等、直接会って打ち合わせる、その時間は確保して、それ以外の事務的な連絡はもう十分パソコンで通用するんだとい

うことで、極力そういう子どもたちと向き合う時間をつくるために、そういう短縮の仕方、これはもう随分工夫してもらっているというふうに思います。

また、きのう申しました土曜日の開校につきましても、月曜から金曜の慌ただしさ、これを何か子どもたちに向き合う時間への余裕、精神的余裕の時間としてできないかと、そういうようなこともあわせて考え含めていることでございます。

そういう中で、極力時間を確保していこうというのは、各学校においても、私どもにつきましてもですね、極力委員会からの用務も減らそうというふうに努力しているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

11番上野議員

○11番（上野淑子君）〔登壇〕

この多忙な中での先生方の現場の努力、それから国としても、市としても、たくさんの支援員、いろんな方面から援助してもらっているということ、この現場の様子を私たちはしっかり踏まえながら、なぜかということを考えていかなければならないなと思っております。

で、これは最後に1つお聞きしたいんですけれども、こういうふうにいじめ、体罰、いろんなことができてきたら、そこに文科省としても、道徳の教科化とか、いろんな厳罰ですかね、体罰をした人の厳罰とか、いろんなものが出てきましたけれども、それでもって本当にいじめとか体罰とか、そんなものがなくなるものなのかなと私は思っておりますが、どうなんでしょうか。そののところ、教育長の見解をお聞かせ願いたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

廊下でどなたかおっしゃったんですが、例の、ならぬことはならぬものですよというのは、あれは、なくなるといことは、一つの本質を持った言葉として、やっぱり地域の人は大事にそれを持って道徳観とされている。そういう言葉がまた全国各地にあらうかと思えます。ですから、今、地域の方がいろんな形で学校に入っていたり、子どもたちと一緒に活動していただいている。そういうことは非常にありがたいことだなというふうに思っております。

道徳のことは、これからいろんな議論があろうかと思えますが、これだけということ、本当に今、これまで五、六十年間やってきたかなと。あるいはこれができて、次はこういう面が大事じゃないかというようなことを、計画的、あるいは積み重ね的にやってきたかなと。その辺の不足を説かれることは多々あります。で、確かに道徳の時間とほかの学校、学級での生活とをうまくつなげているとか、そういう課題はありますので、そういうことまで含めて考えていきたいと思えます。

先ほど申しました、今、武雄市内においては、多くの学校でそういうふうに地域の方々の応援をいただいていると。これは今後も大事にお願いをいたしたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

11番上野議員

○11番（上野淑子君）〔登壇〕

本当に何かという答えはきちっと出ない子どもたちの教育であります。道徳とか厳罰化では子どもたちは救えないというところを、今、いろんな現場の状況とかなんかをお聞きしましたけれども、そういうことを踏まえながら、私たちは学校と地域と家庭と協力しながらやっていかなければならないなと思います。

そして、教育というのは、子どもたちと先生との信頼、先生と親との信頼関係が一番だと思っております。その信頼関係を結ぶために、子どもたちのために学校でもいろんなことをやっていращやるし、我々地域人も学校とかかわっていきたいと思っております。これから先、本当に我が武雄市も子どもたちとの信頼関係がふえ、明るい学校教育ができますことを望んでおります。

次の質問に移ります。幼稚園の今後についてです。

公立幼稚園の今後については、私は公立幼稚園を存続していただくために、今までずっと言い続けてまいりました。せんだって幼稚園のほうにちょっと行ってまいりました。私は、幼稚園のほうで時々図工の授業をさせてもらって、子どもと一緒に楽しいお絵描きの時間を持ったりしております。それからまた、婦人会のほうでもプールにEM菌の投入をしたりして、子どもたちとはいろいろかかわりを持っております。そこで、子どもたち、本当に明るく伸び伸びと楽しい広い園庭で遊んでいる。ああ、本当にいいな。こんなところがどこでもいっぱいあればいいなと思っております。ほかの園が悪いというわけではありません。私はここにいるので、ここがいいなと思っております。

一つだけ、本当に子どもたちっていいなと思うことをお伝えしたいと思っております。

先日、七、八人でプールにEM菌の投入をしに参りました。子どもたちにEMの話をし、環境の話をちょっとして、みんなでプールにまこうねということでまいりましたら、あるおとなしい女の子が1人寄ってきて、聞こえたよ。何の聞こえたねと言ったら、EM菌ちゃんがプールをきれいになすごと頑張るけんねと言いよんさるよと。私は本当にうれしかったです。何年か投入をしておりますけれども、子どもたちの心ってすばらしいな。そして、それを言う子どもたちの心の余裕もあるんだなと。本当に豊かな教育だ、ああ、幼稚園教育というのはいいな、こんなものかな、本当にいいな、ここを残したいなという思いで帰ってまいりました。

で、本当に今年度もどうなっていくのか、幼稚園の全体の様子を知りたいと思っております。

ども、県内で公立幼稚園というのはどれくらいあるものなのか。そして、その状態、園児の状態というのはどういうものなのかなというのをお聞きしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

県内の幼稚園の状況を申し上げたいと思います。

県内では公立の幼稚園が13園ございます。それから、私立では94園ということで、100を超える幼稚園があるわけです。公立の幼稚園につきましては、今申し上げましたとおり、非常に割合的には少ないということで、12%程度になっているということでございます。

武雄市におきましても、合併前の北方幼稚園が武雄市立ということになってきたわけですが、園児の数につきましては大変少ない状況ではございます。現在で言いますと、北方幼稚園は4歳児と5歳児を保育いたしておるわけですが、32名保育をいたしておりますので、若干少ないかなというふうな感じを持っておるところでございます。

〔11番「ほかの幼稚園は。わかりましたら」〕

申しわけございません。県内のほかの幼稚園の状況でございますけれども、多いところと少ないところがやはりございます。例えば、佐賀市でいいますと、本庄幼稚園、これが122名ということで聞いておりますし、少ないところでは伊万里市の波多津東幼稚園、これが14名ということで聞いておりますので、いろんな規模の幼稚園があるということでございます。

○議長（杉原豊喜君）

11番上野議員

○11番（上野淑子君）〔登壇〕

人数のことで、余りうちと変わらないんじゃないかなというふうに状態を見ておりましたが、私のほうに、これまた保護者の方からですが、来年、下の子が行くので、それまで幼稚園はあろうとか、毎年3月になると、新年度に向けてのいろんな質問、御意見が寄せられます。だんだんだんだん少のうなりよるばってん、これでもよかかねとか、いろんな意見があります。本当に私は存続していかなければならないという意見を持っておりまして、ある日、幼稚園のほうに行ってみました。で、お母さんたちにちょっと寄って、お話を聞いていいですかということで、お母さんたちからいろんなお話をお聞きしました。お母さんに、どうしてここの幼稚園を選ばれたんですか、1年たちましたねというような話をしておりましたら、まず一番お母さんたちがおっしゃるのは、やっぱり経済的な条件でした。子どもたちが2時までで終わってもいい。それから一生懸命子どもたちとかかわることができる。これは今しかない。子どものためにも、私はそれをしっかり思っていますという親さん。それが、もうほかのところになると、自分が働きにあって、それを保育費に回さなくてはならない。子どもとの時間がとれないとか、ここが給食費を含めて安いので、ここだっ

たら子どもと一緒に時間を自由にとってここで生活ができるというお母さんも大半いらっしゃいました。そして2番目に、園庭を見にきたときに、広い運動場があって、プールまであって、明るい園舎だったので、もうこれはすごいなと思いましたという御意見。それから3つ目ですけれども、給食についても、小学校と同じ給食だから、学校に上がったときに、本当にするっとスムーズに行きやすいという意見もありました。で、いろんな意見がたくさんありました。そして、皆さんおっしゃるには、本当に満足しています、とてもよかったと思っていますという御意見でした。

私もそのときに、少しでしたけれども、園児がこんなふうに減っていますよということもお話もしました。だから、これから先、どうなるかは今のところ決まっていません。私は皆様に意見を聞きにきただけなんですということでもいろいろお聞きをしました。その中で、親さんたちからの要望でしたけれども、1つは、どうして3歳児からないんですかということ。2つ目、自分がここに決めたときにはぎりぎりになって決めた。よく知らなかった。どうして広報をはっきりしてくれないんですかということがあったんですよね。で、いろんな意見をお聞きしました。そうですね。本当にこんなすばらしい園が続くようにしなくてはなりませんねということで帰ってまいりましたけれども、毎年、この幼稚園については意見が寄せられて、どうする、どうする、どうなる、こうなる、置いてほしい、うちの孫まで置いてほしい、来年はあるやろうかという意見ばかりです。だから、今後、本当にどうなっていくのかな。ただ、世の中は、さっきの学校じゃありませんけど、本当にニーズが変わってまいりました。働く女性の方がふえて、世の中のニーズ、保育に対するニーズも変わっております。延長保育、祝祭日、休日の保育、ましてや24時間保育という話まで出ておる現代です。このようなときに、どういうふうに変っていくのかなということをお聞きしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

北方幼稚園の今後について、私から申し述べたいと思います。

確かに私のところにも、直接、どうなるのという不安のお声が非常に参ります。で、これについてお約束をするのは、決してなくすことはしません。ですので、それはもう安心してあの場所を活用していただくということで今考えています。ただし、先ほど古賀部長からも話があったとおり、公設公営で行うということに関して言うと、いろんなちょっと制約がありまして、もうどんどんやっぱり入ってくる子どもたちが減っているという側面と、どうしてもこれが経費となって武雄市の一般会計に非常に響くという状況になっているんです。これは議員もよく御承知だと思いますので、今後なんですけれども、まず25年度の園児募集は通常どおり行います。で、これは一方で、黒岩幸生議員にもお答えをいたしましたけれども、

いろんな方向性、可能性を探っていくという中で、今、我々が考えているのは、認定こども園の道を探ることができないかということを考えております。認定こども園については、別途、こども部長から答弁いたさせますけれども、武雄市においても認定こども園は三間坂幼稚園ですよね、今、保育園で併記されていますけれども、こちらはもう採用されておられます。そして、山内保育園、これは25年度からかな、認定こども園の制度を導入されるということで、徐々に市内でも広がりつつありますので、これについては、これを請け負ってくださるところというのを我々はちょっと探さなきゃいけないし、場合によっては、ちょっとこれは公募になるかもしれませんが、それはもう少し、ちょっと今、これは非常に大切な話なので、拙速は私も避けたいと思っています。ですので、これはもう少し時間を私どもにいただいて、本当にベスト、北方幼稚園の精神、思想がそのままなるべく永続できるような方法、運営方法ですよね、これについてはしっかり考えていき、それから議会にしっかりお諮りをしたいと思っていますので、その際にはまたお知恵を拝借できればありがたいと思います。認定こども園の説明については、担当部長から答弁をいたさせます。

○議長（杉原豊喜君）

蒲原こども部長

○蒲原こども部長〔登壇〕

認定こども園についての概要ですけれども、認定こども園は、就学前の子どもの幼児教育と保育を一体として捉えて、一貫して提供する新たな枠組みとして平成18年度にスタートしております。で、都道府県知事からの認定を受けるということになっておりまして、先ほど市長のほうからもございましたように、幾つかのタイプがございまして、認可幼稚園と認可保育園とが連携して一体的な運営を行う幼保連携型、そして先ほどの中にありました、認可幼稚園が保育所的な機能を備えて認定こども園としての機能を果たす幼稚園型、そして認可保育所が幼稚園的な機能を備えて認定こども園としての機能を果たす保育所型などのタイプがございまして。

○議長（杉原豊喜君）

11番上野議員

○11番（上野淑子君）〔登壇〕

認定こども園についても、本当にぱっと聞いただけではよくわからないようないろんな種類があるということで、おいおい私たちも知っていかなくてはならないし、やっぱり保護者に対しても詳しい説明は必要ではないかなと思います。そして、よりよい幼稚園になるように進んでいきたいと思っています。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これは本当にそのとおりで、保護者の方々が本当にやっぱり心配をされていますので、先ほど私はちょっと議会と申し上げたんですけれども、これは保護者の皆さんたち、今後予定をされている保護者の皆さんたちにもしっかり説明をしていきたいと思っていますので、ぜひこれは多くの皆さんたちがごらんになられていると思いますけれども、しっかり丁寧に御説明をしていきたいと。いずれにしても、北方幼稚園は、ちょっと運営形態は変わるかもしれませんが、しっかり残していきたいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

11番上野議員

○11番（上野淑子君）〔登壇〕

保護者に対する大切な説明です。よろしくお願ひしたいと思ひます。

では、次に移ります。

これまた3月になると、4月の新学期に向けてたくさんの声が届いておりますが、その中でも福祉について、障がい児の支援についてお尋ねをしたいと思ひます。

1つ、これはまた前議会でも質問をしておりました、たんぼぼ教室の行方についてです。

どうなったのかなということです。一日も早く、たんぼぼ教室に通う子どもたちが安心して通える場所をと思ひしておりますので、どうなっているのかをお聞きしたいと思ひます。

○議長（杉原豊喜君）

山田くらし部長

○山田くらし部長〔登壇〕

たんぼぼ教室については、現在、武雄保育所に併設という形で実施しているところでございます。御存じのように、武雄保育所については民間に移譲したいということで、現在、運営をしていただく方を募集しているというふうな状況でございますけれども、たんぼぼ教室そのものについては、民間移譲とは別に考えたいということで思っているところであります。で、前の議会におきまして、市長のほうで、今後について、武雄保育所に併設、それから子育て総合支援センターに移転、それから北方幼稚園に移転というふうなお話をしておりましたけれども、先ほど北方幼稚園については今後も残していくというふうな話もございましたので、その辺もあわせて詰めていきたいというふうに思ひしております。で、現在、具体的にどうするということまでは至っていないというところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これは極めて重要な話ですので、私のほうからちょっと答弁をしたいと思ひます。

大枠は先ほど担当部長が申し上げたとおりなんですが、最初、私の考えは、今、武雄保育所にたんぼぼ教室がありますので、一緒のほうがいいなと実は思ひていたんですね。で、先

ほど部長からあったように、場所については、北方幼稚園であるとか、子育て総合支援センターというのも考えたんですね。別にしてなのか、一緒にしてなのかはちょっと別にして。ですが、やっぱりよくよく考えてみると、これはこれで本当に充実させなきゃだめなんだということ。だから、一般の保育と病後児保育、障がいを持つ子の保育というのは、またやっぱり別なんですよね。ですので、今、我々が考えているのは、併設というのにはちょっと考えられないということなんです。ですので、これについては、しっかりとした機能を持たせて、ただし、これは市にその知見がはっきり言ってありませんので、この部分というのは、きちんと民間がやってくれるところを、これは別途また募集をする必要があるだろうと思っています。これは議会ともまた討論をさせていただきたいと思うんですけども、私自身はそう思っているんですね。

その上で、何でもかんでも公立がやる時代というのは過ぎていきます。ですので、例えば、兵庫県の宝塚市等で見られるように、あそこは保育のある意味先進地なんですね。で見られているように、民間がやってくれるところに、どうしてもそれがコスト的に合わないといった場合については、行政が、例えば、加配をする。あるいは行政の公務員の保育士っているじゃないですか。それを別途派遣するとか、あるいはうまく、これは医師会と調整する必要がありますけれども、看護師を派遣していただくというようなバックアップ体制がないと、民間だけじゃ無理なんですね。ですので、そういう広い意味での加配を含めて、この部分についてはやっぱりしっかり考えていこうと思っています。

ちょっとこれは、何でもかんでも一気ににはできませんので、まず、くらし部長が申し上げたとおり、今、武雄保育所の受け持っていていただくところを募集していますけれども、それとちょっと時間はずれますけど、しっかり制度設計をした上で募集というふうな段取りに入っていくものだということに認識をしております。いずれにしても、今のたんぼぼ教室を拡充する方向でしっかり考えていきたいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

11番上野議員

○11番（上野淑子君）〔登壇〕

本当に大事なことです。今からもどんどんふえていくことと思います。一日も早く、しっかりした施設ができることを望んでおります。

では、次に移ります。

次は、ショートステイについてです。

これも市民の声です。障がいを持つ子どもを預けるところがないと。きょうは1日用事があるけれども、半日でいいから預かってほしい、今夜はどうしてもお通夜に行かなくてはならない、子どもを預かってくれるところはないだろうか、こういうときはどうすればいいんですか。こういうふうなときの、今現在、武雄市の状態はどのように受け入れられているの

か、どういう状況になっているのかをお聞きしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

山田くらし部長

○山田くらし部長〔登壇〕

（モニター使用）障がい児のショートステイの話ですけれども、現在、市内には3つの事業所がございまして、それぞれ2名ずつ受け入れられるというふうな状況でございます。また、近隣にも施設においてショートステイについては受け入れられる施設があるということでございます。

○議長（杉原豊喜君）

11番上野議員

○11番（上野淑子君）〔登壇〕

あるということですが、それは障がいによっていろいろあるのでしょうか。障がいの度合いによっては受け入れられないとかなんとか、いろいろあるのかなと思います。

それから、利用料金なんかについても、わかれば教えてください。

○議長（杉原豊喜君）

山田くらし部長

○山田くらし部長〔登壇〕

失礼しました。ショートステイの利用につきましては、先ほど言われましたように、急に利用が必要になったということでの利用になると思いますけれども、利用に当たりましては、受けられる方のいろんな特性、障がいの程度と、そういうふうなものがございまして、事前にそれぞれの事業所とお話をさせていただいておったほうが一番いいんじゃないかということでございます。そういうふうな形になりますと、契約的な話になるわけですが、一応契約をさせていただいておって、急な利用のときにはお願いするというふうな形でしてもらっていたほうが、受け入れをするほうも安心して受け入れができる、利用される方も安心して利用できるということですので、事前にそういうふうな話し合いをさせていただいておっていただければいいなというふうに思っております。

あと、そういう施設の利用の料金ですが、すみません、モニターお願いします。

（「もうちょっと大きゅうならんと」と呼ぶ者あり）（モニター使用）精いっぱい申しわけありませんけれども、（発言する者あり）基本的に1日当たりというふうな形になっております。

〔市長「注意してくださいよ」〕

○議長（杉原豊喜君）

静かに。

○山田くらし部長（続）

障がいの程度区分にもよりますけれども、800円から1,300円。住民税非課税世帯の方につきましてはゼロ円というふうなことでございまして、あと実費負担というふうな形で、食事、1日とっていただきますと800円程度、光熱水費につきましては1日300円程度。これについても、施設で若干金額は差がございまして、こういう表現をさせていただいているところがございます。

あと、下のほうは一月当たりの上限というふうな形でございまして、住民税非課税世帯につきましてはゼロ円、それから住民税課税世帯、それから住民税所得割が16万円以上とか、28万円以上とか、そういうふうな形で上限額は設けられておりますので、それ以上の負担はないということでございます。

○議長（杉原豊喜君）

11番上野議員

○11番（上野淑子君）〔登壇〕

それで、こんな施設があるということ、それからこういうこともやっぱり知らない人が多いんじゃないかなと思うんですよね。で、私のところにこういう意見が来るんじゃないかなと思っておりますが、こんなのは福祉サービスの一覧表というようなものはありますか。本当に先ほどの幼稚園の件じゃないですけど、知らない方というのは多いんじゃないかな。で、私のほうに意見が来るんですけども、そういうふうな福祉サービスの一覧表というふうなものもつくっていただければと思いますが、あるかどうか。ありますか。

○議長（杉原豊喜君）

山田くらし部長

○山田くらし部長〔登壇〕

福祉サービスについては、範囲が広うございまして、いろんな相談に来られた場合につきまして、このような障がい者ハンドブックというふうなところでお示しをして、いろんな話をされた部分についてお話をさせていただいて、この本を差し上げているというふうな形をいたしております。で、どういうふうな利用をされるか、なかなかわからないと、福祉サービスもちょっと複雑になっておりますので、そういうふうなところで話をさせていただいているということでございますので、必要な方につきましては、市役所の福祉課のほうに準備をいたしておりますので、御利用いただけたらというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

11番上野議員

○11番（上野淑子君）〔登壇〕

本当に福祉については、市長も開会のときにおっしゃったように、福祉の充実ということ掲げておられます。で、本当に大変、いろんな多岐にわたる福祉ですけれども、住民にわかるようにしていただきたいなと思っておりますので、その辺をよろしくお願ひしたいと思

います。

続いて、病後児保育についてです。

これもまた、12月には丁寧に部長のほうより説明をいただいて、進んでいることとおっしゃるので、一日も早い実現を楽しみにしております。また、私のほうにもたくさんの、大きな武雄市、小児科がいっぱいあるのに、どうしてなのかなという意見もお聞きしますが、今、行政のほうでは一生懸命頑張っておられますよということをおのほうで答えておりますので、本当に一日も早く福祉の充実が図られるように楽しみにしております。

やっぱり武雄市、合併以来、本当に世界一の市長、日本一の市長と、いろんなことを新しくどんどん進める。また、山口裕子議員の話にもありましたように、それでもインターネットもしない、パソコンもしない、我々年配のおばさんたちもいっぱいおります。こういううちの武雄市です。どちらも平和で住みやすい市にならなくてはいけないと思っております。ですから、私も今からも住民の負託に応えながら、たくさんの声を届けていきたいと思っております。

以上で一般質問を終わります。

○議長（杉原豊喜君）

席に着いてください。

以上で11番上野議員の質問を終了させていただきます。